



36

「線」

部屋を見渡すと、いくつもの線が張り巡らされている。

充電器のケーブル、機材と機材をつなぐコード、延長タップから伸びる家電の配線。きれいに整理しているつもりでも、気づけばうっすらとホコリをかぶり、机の下や棚の裏では小さな森のように絡み合っている。

それらは、この部屋の神経のようなものだと思う。一本抜けたら、照明が落ち、音が消え、作業が止まる。つながり合いながら、この部屋をひとつの「生き物」として動かしているのだ。

こんなに複雑に絡み合っているようでも、主たる電源が遮断されれば、すべてが一瞬で停止する。なんとか弱いものかと思う。

さっき、スピーカーから音が出なかった。確認してみると、線が違う場所につながっていた。この前、いつもと違う作業をしたあと、戻すときに間違えたのだろう。コードを差し替えると、音はあっけなく戻ってきた。

人の心や体も、こういうことがあるのかもしれない。うまく動かなかったり反応しないときは、どこかの「線」が違う場所につながっているだけ。

きつと僕らの中にも、目には見えない無数の線が張り巡らされている。

経験や思い出、誰かの声、過去の自分の感情。それらが複雑に絡み合いながら、「今」を形づくっている。

たかが線一本でも、雑に扱ってしまったら何か大切な機能も失ってしまう気がする。だから、少しくらい絡まってもそれでいい。

時には根気よく、整理したり、ほどこ作業を。

ほどこない線があったなら、

「今はそうなんだ」と、自分の一部として受け入れたい。

ときどき音が出なくなっても、また繋ぎ直せばいい。